
冬に咲く花火

佐藤佑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬に咲く花火

【コード】

N8046U

【作者名】

佐藤佑

【あらすじ】

科学室でのこと。咲季と主人公の話

俺はいつものように科学室へ向かう。
俺が科学室に用があるわけではない。
ただ、俺のお隣さんで幼馴染の咲季サキが科学部員で今日は一人で科学室を使っているだけだ。
だから、俺は科学室へ向かう。

・・・何か可笑しいか？

少なくとも俺には分からない。

なんでクラスの中にも先生も家族でさえも俺たちを冷やかすんだ？
幼馴染なんだから当たり前前だと思っただが・・・

まあ、そんなことはどうだっていい。

今日は咲季が花火を見せてくれると言っていたんだ。

花火。すなわち f i r e。火！！

漢の魂が唸るぜ！！

そんなことを考えながら科学室の前に到着。

扉を開けて中に入ると・・・

顕微鏡をのぞきこむ咲季がいる。

いつも通りだ。

これ関連のこととなると咲季は全然応答しない。
さて、どうするか。

俺は何となく科学室の中を見渡してみる。

火薬らしきものは見当たらない。
ガスバーナーやアルコールランプも見当たらない。

花火は!?

漢の浪漫は!?

俺が愕然としていると咲季が目覚めた。

「……今までどこほっつき歩いてたの？」

早くのぞいて。溶けるから……」

独特な喋り方と毒舌。

だがいつもにもまして俺への対応がひどくないかい？
焦ってる感じもする。

「何をそんなに急いでるんだっ！」

(グイッ)

おいっ!!いきなり何する……!!!!」

何が起きたって!?!簡潔に説明すると……

急に引つ張られて体勢を崩す。

が、どこにも当たらずに済んで反論しようとしたが、
咲季がすぐ近くにいてすごく気まずい……のか？
とにかく喋れなくなっただ。

「どいて、早くしないと溶ける。」

「俺に触れられてると溶けるのか?イタッ!!」

何だろうな。咲季は無言の攻撃が多い。

今は噛まれた。

「氷の花火。」

咲季の説明を受けて納得した。

雪の結晶を見せてくれる約束だったんだと。

花火だと思ってた俺が……

「バカみたいだ。」

「・・・そう。」

あっ！！まずいだる今の！！

「えーとその俺がバカみたいなのであって・・・」

「分かってる。期待してたものじゃなくて期待してた自分がバカみたいだと思っただんでしょ？」

・・・さすが咲季。

だてに俺の幼馴染してない。

「早くどいて。除いていいのは顕微鏡。」

残念な思考はしているが。

というわけで俺は咲季の上からどいて改めて(?) 顕微鏡を除くことにした。

そこにあっしたのは・・・

「もう水になってるな。」

やはり溶けた水だった。

咲季はやはり落胆したようで・・・

んー、とりあえずなんかフオローしたいよな・・・。

「今度の夏に花火見に行こうぜ！！今度こそはどでかい花火が見れるように！！」

精一杯そういった。

すると咲季は寂しそうな嬉しそうな複雑な表情をして。

「今度こそは・・・ね。」

そういった。

そういえば・・・近場に花火大会はないし、
咲季と花火を見た記憶はないな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8046u/>

冬に咲く花火

2011年10月8日19時58分発行